

門
類
號
4
10
129

内
飭龜山天皇宸影

コノ宸影ハ、旦天皇ノ勅願ナル南禪寺ノ所藏ニ係ル、同寺ノ開祖大明國師
普及ビ二代南禪院國師祖ノ畫像ト三幅對ノ一ニシテ、竝ニ探幽ノ畫キタル
モノナリ、之ハテ同寺開山堂ニ奉安セル天皇ノ御木像ト對比スルニ、御頂相
ノ特徴等酷ダハテ相肖タリ、以テ其依據スルトコロアルヲ知ルベシ、

コ
ベ

五十五

大内義隆畫像

大内義隆ハ、防長豊筑藝備石七州ノ守護トシテ雄ヲ鎮西ニ稱セリ、常ニ心ヲ王室ニ傾ケ巨資ヲ獻ジテ後奈良天皇御即位ノ儀ヲ助ケ奉リ、京搢ヲ招聘シ、明韓ニ通商シ以テ中國ノ文化ヲ開發セリ、官ハ正二位兵部卿兼太宰大貳ニ至ル、天文二十年九月叛臣陶隆房ニ攻メラレテ自殺ス、年四十五、コノ畫像ハ、天文十三年ニ畫カシメタル壽容ニシテ、原本ニハ大德寺玉堂ノ賛アリ、今コノ像ヲ觀ルニ閑雅端麗搢紳ノ風アルハ以テ其文學ニ優游セルヲ想見スベシ、

片桐且元畫像

片桐且元ハ、初助作、後市正ト稱ス、豐臣秀吉ニ仕ヘ、天正十一年賤ヶ嶽ノ役ニ所謂七本槍ノ一人タリ、秀吉薨後、秀賴ヲ輔佐ス、慶長十九年大佛鐘銘事件ノ起ルヤ、且元東西ニ奔走シ、周旋甚ダ力メシモ、其苦衷ノ策ハ容レラレズシテ、終ニ大坂城ヲ去ル、コレヨリ東西ノ間破裂シテ、大坂城終ニ陥リ、秀賴自殺ス、且元憂苦病ヲ發シテ卒ス、享年六十三、時ニ元和元年五月廿八日ナリ、

コノ畫像ハ、且元ヲ葬レル大德寺中玉林院ノ所藏ニシテ、原圖ニハ月岑宗印ノ賛アリ、宗印ハ大德寺ニ住シ、元和八年ニ寂セシ人ナレバ、以テコノ畫像ノ當時ノモノタルヲ知ルベシ、

山田長政畫像

山田長政ハ、通稱仁左衛門、駿河ノ人ナリ、少ニシテ雄志アリ、海外ニ航セ
ント欲シ、商船ニ搭ジテ臺灣ニ至リ、遂ニ暹羅ニ渡リ、國王ノ爲メニ四隣
ヲ征服シ、國事ヲ攝行ス、後内亂アリテ害ニ遭フ、時ニ寛永十年ナリ、長政
常ニ郷國ヲ慕ヒ、暹羅戰艦ノ狀及ビ自己ノ像ヲ畫キテ之ヲ駿河淺間社ニ
奉納セリ、コノ畫像ハ即チ是ナリ、風貌魁梧、服裝奇偉ナルハ以テ圖南ノ
壯舉ヲ想見スルニ足レリ、大正四年從四位ヲ贈ラル、

荻生徂徠畫像

荻生徂徠、名ハ雙松、字ハ茂卿、通稱總右衛門、徂徠ハ其號ナリ、又護園ト號ス、本姓物部氏ナルニヨリ物徂徠トシテ知ラル、古文辭ノ學ヲ倡ヘテ一世ヲ風靡シ、天下爭ヒテ其門ニ趨ル、其學浩博ニシテ、兵刑音律書技ニ至ルマデ兼綜セザルハナシ、享保十三年歿ス、年六十三、

コノ畫像ハ、其子孫ノ家ニ傳ハレルモノニシテ、世間ニ流傳セルモノハ蓋シ皆之ニ依據セルナリ、

佐久間象山畫像

佐久間象山、名ハ啓、又大星、字ハ子明、通稱ハ修理、松代藩ニ仕フ、初メ漢學ヲ佐藤一齋ニ學ビ、後江川太郎左衛門下曾根金三郎ニ從ヒテ、砲術ヲ受ケ、又門人黒川良庵ニ就キテ、蘭學ヲ修メ、遂ニ西洋兵學ノ一家ヲ成シテ、諸生ヲ教授ス、象山識見卓犖、夙ニ開國ヲ倡ヘ、竊ニ畫策スル所アリシガ、元治元年七月十一日、攘夷論者ノ爲メニ殺害セララル、時二年五十四、明治二十二年正四位ヲ贈ラル、

コノ畫像ハ、象山ノ親族故舊ガ、畫工ニ指授シテ畫カシメタルモノヲ原本トシ、嘗テ自ラ工夫シテ撮影セシメタル寫眞ニ參照シ、又象山ニ緣故アル人士ノ注意ヲ受ケ、之ヲ修正セルモノナリ、

鎌倉時代風俗ノ圖

コノ圖ハ、淨土宗ノ開祖源空ノ傳ヲ畫キタル法然上人行狀畫圖ノ中ヨリ探リタリ、承元元年、源空ガ專修念佛ノ事ニ依リ、罪ヲ獲テ配所土佐ニ赴ク途次、攝津經ケ島ニ於テ布教スル狀況ニ係ル、屋舎船舶、及ビ僧俗男女老少ノ服裝等、當時ニ於ケル風俗ノ一般ヲ徵スベシ、

コノ繪卷ハ、鎌倉時代ノ末期土佐吉光等數人ノ畫キタルモノナリト云フ、

大坂夏陣ノ圖

慶長十九年、大坂關東ノ平和破レテ冬陣トナリ、一タビ和ヲ講ゼシガ、忽チニシテ復破レ、翌元和元年ノ夏陣トナル、五月、徳川家康父子大坂ニ向ヒ、六日國分道明寺及ビ八尾若江ノ戰、七日天王寺岡山ノ戰ニ於テ、大坂方全ク敗レ、八日城陷リ、豊臣秀頼等自殺ス、

本圖ハ、落城前ニ於ケル、城門ノ内外ノ狀況ヲ畫ケルモノニシテ、甲冑ヲ着ケザル者ノ多キコト、槍鐵砲ノ盛ニ用ヒラル、コト等、當時戰爭ノ狀況ヲ徴スベキモノ頗多シ、

コノ原圖ハ、役後、家康ヨリ江戸城留守居タリシ最上家親ニ贈レルモノナリト傳フ、後山形興禪寺ニ傳ハリシガ、明治二十七年同市大火ノ際、烏有ニ歸セリ、今ソノ摸寫數種ヲ校合シテ、本圖ヲ作ル、ソノ中衣服鎧等ノ色彩ハ、摸寫畫工ノ意ニ任セタルモノ多シト見エ、各本ノ差異甚シキモノアルヲ以テ、多クハ之ヲ省略セリ、

大名行列ノ圖

コノ圖ハ、弘化四年九月廿三日孝明天皇御即位ノ禮ヲ行ハセラル、ニ當リ、松江ノ城主松平出羽守齊貴ナリタカ、將軍德川家慶ヨリノ奉賀使トシテ上京セル時ノ行列ノ繪卷中ヨリ、進獻ノ長持(上段)及ビ齊貴ノ駕籠脇(下段)ノ兩部分ヲ抽キ出セルモノナリ、上段、御用ノ札アルハ進獻物ヲ納メタル長持、騎馬ハ中乗ヲ命ゼラレタル使番役ニシテ、下段、前ナル駕籠ハ齊貴坐乗ノモノ、後ナルハ乗替ノ山駕籠ナリ、筆者ハ同藩ノ畫師陶山雅純(號勝寂)トス、

當時大名ノ行列ハ、家格石高等ニヨリテ、人馬器具等ニ差異アリシガ、コノ行列ハ將軍ノ名代トシテノモノナレバ、家格以上ノ鹵簿ヲ具ヘ、上下ノ總人數實二千七百六十人ノ多キニ達セリ、